

のだから、直ぐその背景に涙多き運命が纏綿してゐることが感付かれる。而かも、少女の無心で云ふのであるが、また言葉には却つて深い悲しみが現はれてゐる。この一文の如き、短い小説と云つても好い位である。これによつて見ても、日記であり、小品文であるところの小さな文章にも、書く人の技術によつては、どんなにでも優れたものが出来る。と云ふことを感じなければならぬ。ロシヤのツルゲネーフの「散文詩」などは、晦澁な文字や、難解な書き方をしないでも、實に優れたものが多いのである。盡く生命を有し、永遠性を持つてゐるのである。話がそれたが、要するにこれ等の作例によつて充分日記を主としたものの性質と價值を知つて、文章の習練に資するやうにしな

は三つも四つもの材料が一日のうちにあるかも知れない。それに直接経験であることに、書き易い便利と書くに足るべき眞實がある。

見つめた。そして、小聲でその子のことから、また生活上のことをしばらく良人と話し合つてねた。これは、閨秀作家として盛名あつた故素木しづ子氏の日記である。氏の文章が繊細で、如何にも優しい女性らしい特色があることは、特に定評がある。その上、氏の聰明なる天賦の性格と、鋭敏なる感受性とは、何物に對してもよく働いてゐることは、一讀して直ぐに分る。

この一文の如きは、日記などと云ふよりも立派な小品文として書かれたかの感がある。小説家だけあつて、飽く迄、描寫式で行つたところに、違つた書き方の例として、ここに紹介する價値があるのである。牛乳屋が世話してくれた八つの少女——それが子守として雇はれると云ふ

小品文としての日記を書くには、即ち自分の日常生活を材料とすることがある。これは、初學者に最も便利な方法である。毎日一篇の文章が作れるわけである。時として

併し、ハガキ文ではさうは行かない。凡そ、ハガキの紙面に書ける程度の極短かい文章でなければならぬからである。而かも、ハガキだからと云つて粗略にすることが出来ない。今日人間の生活内容が益々複雑になり、人と人との間の交渉が益々多くなつて來たのにつれて、次第に文書の往復が頻繁になり、ちよつとした事でも、手間と労力をとを省く爲に、ハガキで用をすます事が多くなつて來てゐる。それだけに、諸君がハガキを自分のために書き、また人の爲に書かせられる機會が多いと思ふ。さうした時に、ハガキ文——即ち短文を書く練習が充分出來てゐたならば、便利が多いのみならず、随分利益を得ることがあると思はれる。單に利害に關する方面からのみ見ないで

手紙さへ書ければ用が足りる。外の深い學問は入らないと云つた時代は過ぎた。そして、一枚のハガキ文でも、その上手、下手にふつて種々な影響を感じなければならぬやうな複雑な世の中になつた。短文でみがい

ければならない。

### 三 新らしいハガキ文

ハガキ文には、小品文と云ふよりも、寧ろ今日「短文」と稱せられてゐる五行乃至十行で一文をなすものに相當してゐる。無論、書簡文の中の一體であることは云ふまでもない。

手紙ならば、可なり詳しいことが書ける。それが、立派な小品文になる場合も多い。感想でも、議論でも、叙景でも充分に出来る。また、複雑した事件をも解剖して見せることが出来る。それは、簡潔達意を旨とすべきが手紙の要諦であるとは云へ、十枚二十枚を費してもいけないと云ふやうな制限がないからである。

思ふ。口語體の自由な文體をとる者から見たら、候文を書くのが古臭いやうに思はれるであらうし、候文の方から見れば、口語體が何となく輕薄なやうに見えて、禮儀を缺いてゐるやうに感ずるかも知れない。

先づ統一することが困難としたら、吾々はどうしたら好いかと云ふに、矢張、自由な現代の言文一致體をとるのが好いと信する。分り易く、達意を旨として書くには、これに越した適當な文體は、今日の日本にはないのである。言文一致だからと云つて、必らずしも、輕薄になるわけのものでなく、禮儀を失するわけでもない。要はその人の書き方にあるのである。

そこで、本論のハガキ文に返らねばならぬが、これとて

の目的に適してゐる。併し、ぞんざいな言葉使ひではいけない。矢張短文によつて、平常に練習しておいで、いざと云へば直ぐ書けるやうにしなければならぬ。

もちよつとしたハガキの文章でも、巧みに趣味あるやうに書かれてあると、非常に氣持の好いものである。

今日の社會ほど、書簡文の混亂してゐるものはない形式一點張りの難かしい候文を書く人もあれば、であります。口調の言文一致をとる人もある。婦人の間に於ても、「よくつてよ」とか「さうだわ」と云つた調子で平氣で書く者もあれば、擬古文で牛の涎のやうに長々しい勿體振つたもののを書く人もある。かくの如く、種々様々な文體があつて、各自勝手にやつてゐるやうな状態にあるから、到底いつ統一が出来るものやら見當がつかない。それですむ人同志の間ならば、敢て差支ないが、人々反対な書き方をする人々が手紙を書く時は、變な者になつて來るであらうと

ハガキ文などに長い時間を費すやうでは駄目だ。忙しい、目まぐろしい世の中だ。それには、なるべく、簡単で、自由な文體が必要だ。言文一致が、一番よくそ

なハガキをうけとると、非常に不快なものである。その爲に、差出人の人格をすら疑ふやうになるものである。だから、この事は充分注意をして、過ちのないやうにしなければならない。

それから、前にも種々な場合に說いたやうに、日記文などと同じく、ハガキ文にでもなるべく趣味あるやうに書いて相手に面白く讀ましめ、また警句や、ウイットをも時には入れて、人の意表に出づるやうに書くのも、その事件の種類によつては必要である。こゝに、小品文の一體たる短文を學ぶ必要があるのである。

以下少しく實例を擧げて、説明をしたいと思ふ。時候見舞のハガキを出すにしても、

ハガキ文は、その相手により、その通信すべき内容の如何により、よほど注意深く書くやうにしなければならない。ウイットや警句と云ふことも絶対にいけない場合があるのは、云ふまでもない、要するに相手の感情を尊重するのが必要である。

も、一般の書簡文と同じく、第一に達意と云ふこと。第二に簡潔に書くこと、第三に禮儀を失はぬこと、第四に相手に悪感を起させるやうな文字を使はぬこと。第五に時間とか場所などを正確にはつきりと書くこと。さつとこの位のことを辨へて居れば過ちはないだらうと思ふ。

それに、根本的に大切なものは誠意を以て書かねばならぬことである。手紙と云ふものは必らず對象があつて書くものである。一人のこともありあらうし、數人の場合もある。それは何れであつてもよろしい。兎に角、只一片のハガキと雖も、その人格の現はれに違ひないのである。誠實の心を以て筆を執る事は何よりも大切である。偶々その人の不注意から誠意があるのかないのか疑はしいやう

拜啓時 下嚴寒の候、尊堂御一同様如何御消光被遊候哉。御伺申上候。降而小生方一同無事にて暮し居り候に付乍他事御放念下され度候。先づは右御見舞迄尙御令息達へよろしく御鳳聲願上げ候。

と云ふ風に書いても充分用事は足りる、別に過つてゐるなどとは云へない。併しながら、かう云ふ型にはまつたやうな書き方は、どうも只義理一遍のやうに思はれて相手のうけとる感じが鈍い。丁度、年始状などと同じやうに、誰もが事務的に書いて出す虚禮のやうに思はれる點を免れない。それでは折角の此方の好意がそのまま先方に通じないことになる。殘念なことではないか。

で、かう云ふ風に書きかへたらよからうと思ふ。

近頃の寒さは格別です。御地はさぞ霜がひどいこととお察し、ます御令息達の學校通ひ、それから寒さ嫌ひの伯母様の御苦心をこそとお察しいたします。皆様充分御大切になさいまし。此方はみんな丈夫で暮らして居ります。

この方が思ふ事が自由に書けてもあるし、眞情が流露してあることになる。令息達も歡ぶだらうし、炊事などに辛がつてゐる伯母さんも慰められるところがあるに違ひないのである。長上のもの、目上の人には、言文一致でも、言葉使ひを丁寧にさへすれば決して不快な感を與へたり、禮儀を失つたりするものではない。ないばかりでなく、却つて親しみを感じさせ、此方の心持を觸れさせる事が

友人に送るハガキ文としては、これで充分要領を得てある。これ以上に何か書き添へれば、蛇足になると思はれるであらう。併し、このまゝではどうもまだ意が達しられぬと思ふ。第一の缺點としては、時間や場所が明らかにしてないから、費つた方では、先づそれにまごつく、何時頃にどこへ行つて好いのか分らない。それに、親類の人ばかりのところへ、他人の自分一人がのこくと出かけて行くのは變だ。それは、友人は歎んでくれもしようし、地下の友もれしく思つてくれるだらう。併し、場合が場合だから不意に僕が行つて他の人達が迷惑に思はれるやうな事がないだらうかと云ふことが懸念されて、躊躇しなければならぬことになる。そして、とつおいつ思案をしたり、家

出來<sup>アリ</sup>るのである。  
友人同志とか、同輩の間ならもつと碎けた慣々しい調子で書いても差支ない。會へば馬鹿にぞんざいな言葉で、話しあふものが、ハガキなどの上でだけ、變に堅苦しい祥を着たやうな調子の文章を書くと却つて、その眞意を通達し得ぬやうな損がある、それよりも直接眞意を傳へるやうに努力すべきが、文章の一義である。  
もう一つ例をあげて見よう。今度は案内文である。  
明日は亡兄の一周年に相當いたします。就ては法養<sup>ハフヤウ</sup>を營み、親籍一同にて墓參する筈ですから、生前の唯一の親友たりし貴兄の御出でを切に希望いたします。

ござります。

少しく長くなつたが、ハガキにはこれ位のことは書け  
る、もつと短縮すればこれを土臺とすれば好い、かう云ふ  
風に書けば、此方の意志も徹底するし、要領も得ること、  
思ふ。その上、充分満足して来て貰ふことが出来るのであ  
る。かくの如く、ハガキ文の要領はほんのちよつとしたと  
ころで得られもすれば失はれもするのである。そして、ほ  
んの僅かな一言一句によつて、對者に與ふる感動に非常  
な相違が生じて來るのである。

すべて、文章を書くには、かくの如き細心の注意の必要  
であることを心得てゐなければならぬのである。

の人達に相談したりしなければならぬ。  
相手にそんな面倒な思ひをさせるやうでは、前記のハ  
ガキ文はどうしても落第點をつけねばならないことに  
なる。で、次ぎにもつとよくなるやうに書き直して見なけ  
ればならぬ。

多分貴兄も思ひ出して下さるでせうが、兄が亡くな  
つたのは今月の明日です。もう一周年が参りました。  
早いものです。明日午前に法會を營み、午後は墓参で  
す。來るのは親類のものばかりです。家内一同、せめて  
は生前の親友の一人位は来て欲しいと申します。御  
迷惑かも知れませんが、故人を初め、一同の者が満足  
するのですから、午前九時頃迄に御越しを願ひ度う

小品文作法 終

大正七年五月十五日印刷  
大正七年五月世紀日發行

小品文作法

定價金五十錢

著者 德田秋聲

不許  
複製

發行者 原田中三郎  
東京市本所區番場町四番地

印

刷

者

振替口座東京三番

電話神田一九〇九番

東京市神田區美土代町二丁目四十二番地

地

番

四

場

町

番

四

本

所

區

東

京

市

東

京

三

番

號

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

地

四

場

町

四

番

○宮内省臨時編輯官 池邊義象先生  
 ○第一高等學校教授 今井斐己先生  
 ○國學院大學講師 金子元臣先生 ○文 學  
 ○御歌所寄人坂正臣先生 ○文 學 士久保得二先生  
 ○學習院教授 烏野幸次先生  
 ○日本女子大學教授 武島羽衣先生  
 ○大町桂月先生  
 共

刊新最  
 評合徒然草新解  
 著

(三六クロース製金字入頌美本  
 紙數五百頁 今關甫召畫伯裝幀)

◎定價金壹圓 送料八錢

本書  
 五大特色  
 兼好法師評傳  
 解釋の簡潔明白

▲日本の論語と稱せらるゝ兼好法師の徒然草  
 壱部情理併せ到り隨筆として古今に雄視す苟  
 くも文學を解する者にして之れを讀まさるは  
 なし隨つて註解の書多きが中に此の書は好文  
 會八大家の合著になりて字解あり口語譯あり  
 合評あり傳記あり數多珍奇の繪巻物の縮寫あ  
 り兼好の評傳あり殊に八大家の批評を滿載し  
 て錦上花を添ふるの觀あり

地番二十四目丁一町代土美區田神市京東  
 三一六九三〇一九  
 振電 替話

地番二十四目丁一町代土美區田神市京東  
 三一六九三〇一九  
 振電 替話

大町桂月先生著(忽五版) 馬場孤蝶校閱 雄辯研究會編 (忽五版) 四六判箱入頌美本 紙數四百五十頁	最新文章辭典 補珍總クロース製ボイント活字紙數約三百頁	模範作文講話 四六判箱入頌美本 紙數五百五十頁	大町桂月先生著(再版)
錢拾圓壹金價特 錢八料送	錢五拾七金價定 錢六料送	錢拾圓壹金價特 錢八料送	文章を作るのは恰も身體の組織の様に骨があり筋があり肉が有り皮が有る様にそれより骨も筋も肉も皮も備へて居らなければならぬ、本書は桂月先生が小品文、書簡文、議論文、抒事文、抒情文の各類目に付き文章の骨も、肉も皮も筋も、如何なる場合に付し且購求者は希望に依り先生自ら讀者の文章を添削して下さるの特典ある良書也

地番二十四目丁一町代土美區田神市京東  
 三一六九三〇一九  
 振電 替話

堂 善 止 発

女子大學教授武島羽衣著

# 和歌をさなまなび

忽再版  
四六版洋裝頗美本  
紙數約二百餘頁

大町桂月著（忽四版）  
雲のゆくへ

本草綱目卷之三

人  
の  
情  
全  
一  
冊

四六牛上製綢美本  
紙數三百四十七頁

卷之三

○小栗風葉先生著

# 母の愛

忽三版 四六判上製頗美本  
四百二十頁口繪付

●海軍少佐川田功先生著

車する皇

忽三版  
四六半上製成  
三百餘頁假名付

# 農家の村の經濟調査法

秦半裁判九十一餘頁

農商務省曆記左子清道先生著

農村

# 農家の の經濟調査法

錢拾貳價定  
錢貳料送

錢拾圓壹價定  
錢八料發

圖壹金價元  
錢八點零

状態に着目調査確立を計らざるは、實に底なき桶に水を注ぐが如し。本書は斯道に造詣深き著者が農務省の囑託を受けて親しく農村農家の經濟状態を調査せられたる實驗に依り其の必要を説き、方法を指示せられたるものにして而も一々理解と説明を加へ表を添へて其の依るべきを教へられたるものなり、眞にこそ國利民福の基礎にして識者の是非一讀を要する良書なり。

江田島生活より日露日獨の兩大戰に參加したる著者が海上生活の實歷談を輕快流鶯の筆を以て無邪氣に滑稽に、皮肉に最も面白く書いたもので實に近來の大快著である。

う母など共物ふ拭ふ事ふ事は出  
る。かのるんにを事は出  
何愛のなし乞へば自分妻夫がん  
人でが事悲しあ女がしほう妻夫がん  
もあ女がしほう妻夫がん  
も涙なた道つむも人乞食女  
なくて娘すもに人乞食女  
ては讀運命とは道とが立つては被  
まれは道とが立つては被  
め如何迷め道ででの門道に  
傑作にふ吾れた人あり、夫立背  
悲劇まつ子にと夫立背  
小説で數一そと躊躇つくと再  
であへ縉してと再

家庭小説中第一位の稱有る本書は眞に人の情を寫浮世の義理のつらきを盡きて悲しく優しく又憐れ  
る波瀾ある事件を以て滿たされて居る何人も一讀

へられたもので何人も是非座右に備へて置くべき  
ので有ります

今の世和歌のたしなみなきものは人の交際も成功出来ざるべし

東京府神田市美東町一丁目四月二十四番地

電話替東田三一六三〇九一九

# 堂 善 止 兌 發

地圖二十一四月天  
圖說：人體圖示之方法

地備二十四  
一九三〇六九  
東神京三三三

# 東京市神田區美堂町一丁目 登分會社止善堂

●●東京市立一ツ橋高等小學校長

湯澤直藏先生著

玉木愛石先生著

## 新編實業習字手本

附國民心得

菊判大和綴百頁

農學士山崎延吉先生序  
農學士那須皓先生序  
久保田正彝先生著

## 農村青年讀本上

菊判大和綴百餘頁

## 農村青年の指導

我農生 山崎延吉先生著

總假名付全一冊

錢拾六金價定  
錢六料送

錢八拾參價定  
錢四料送

錢拾參價定  
錢四料送

著者は我が農村青年の要求する所を熟知せるの人、今や我が農村青年は其の心甚だ飢ゆ、心飢ふたるものは良書によりて心の糧を得ざるべからず。本書は此の要求に應すべく農村の狀況に精通せる久保田先生が孜々として編著せし物なれば種類多き農村用讀物の内にて尤も傑出して趣味と實益とを兼ね備へたる稀有の一大良書たり。

著者は農村の先覺者として名聲噴々たる人、曾つて某監獄に非道の罪人六百有餘名をして三寸の舌頭片言一語、宜く幾多教誨師をしても及ばざるの感激をあたへしめ典獄をして驚嘆せしめたる事有り以て著者の人格を知るを得べく洒脱なる中に嚴肅なる教訓を藏し自ら其の温容に接するが如く全編悉く農村青年の金科玉條に満たされたり。

本書は實業補習學校規定の精神に基き國語科の書き方緩方の練習に充つる目的を以て編纂したるものにて材料は農工商實業に關する事項中最も適切にして更に實益ある文題を細羅し一方には習字の用書となり、一方又作文の練習書としての經濟的良書にして更に上欄の國民心得は何人も心得置くべき日常必要の事項を掲げたり。

東京市立第一中学校美術部地番二十四丁目一丁代

電話替換 東神京田三一六九三〇一九

發兌 善堂止



375  
11

終